

(ICT)

「学習に興味をもち、互いに高め合い、進んで学習しようとする態度を育てる」  
～ICT機器の活用を通して～

大阪市立大開小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標に「豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成」を掲げている。また、目指す子ども像を「自他を大切にする子ども」「互いに学び合う子ども」「主体的に考え判断し行動する子ども」「健康で安全な生活をする子ども」の4点とし、その実現に向けて日々の教育活動を進めている。

本校の児童は素直で子どもらしい児童が多い反面、以下のようなことが課題としてあげられる。

- ①基礎・基本の学力が低く、学習内容がなかなか定着しにくい児童も多い。
- ②学習に対する興味や関心が低く、自分からすすんで学習しようとする児童が少ない。
- ③自分の思いや考えを、相手にわかりやすく伝える力（コミュニケーション力）が弱い。  
→すぐにトラブルがおこる。自分たちの力で話し合って解決するのが難しい。

これらの実態をふまえ、以下のような力を身に付けさせることが大切であると考え。

- ①学力（基礎・基本）をしっかりと身につけさせる。
  - ②学習に対する興味や関心をもたせる。
  - ③コミュニケーション能力をつけさせる。
- }

主体的

対話的

そして、これらの力をICT機器を使って身につけさせることが大切であると考え、研究主題を先のように設定した。

2. 研究の趣旨

本校は平成28年度に学校教育ICT活用事業モデル校のB校として名乗りをあげ、「ICT機器を活用した授業実践の蓄積」を行ってきた。

平成28年度は、初めての年度であったので、6年生が体育科の「跳び箱運動」で公開授業を行ったほか、各学年で算数科や社会科、図工科などの教科で、実践事例を報告した。

平成29年度は2年目でもあり、公開授業を3学年に広げ、2年生が生活科、4年生が国語科、そして6年生が家庭科で公開授業を行った。また、実践事例も各学級でどのような取り組みを行ったのか報告した。

今年度の平成30年度は3年目ということもあり、公開授業を3学年行うとともに、他の学年も指導案検討会をもち、部内授業をふまえて授業研究会を行うようにした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 学習に対して、興味・関心が高まる内容の工夫

自ら進んで学習に取り組む態度を養うには、まず、学習に対して興味や関心をもたせることが大切である。「おもしろそうだ。」「やってみたい。」と思わせたり、「不思議だな。」「なぜそうなるんだろう。」と疑問をもたせたりすることが学習意欲につながり、自ら進んで課題に取り組んでいこうとする態度を養っていけると考える。また、「わかりやすい」という要素も大切である。「そうか!」「わかった!」と感ずることで、学習に対しての関心が高まり、「もっとやりたい!」と自ら進んで取り組んでいこう

とする態度につなげていけるであろう。そして、自ら進んで学習に取り組むことで、基礎的・基本的な学力も徐々に定着していくと考えられる。

#### 視点② 友だちとコミュニケーションをとり、お互いに高め合うような場の設定の工夫

自分の思っていることや考えていることを相手にわかりやすく伝える力を育むために、できるだけ学習に話し合う場面を設定し、コミュニケーション能力を身につけさせたい。話し合う場面は、となりの人やグループの人たち、また、クラス全体での討論など様々な形態が考えられる。学習場面や内容に応じて、形態を考えて取り組むようにしたい。また、その際には、ただ自分の考えを述べるだけでなく、お互いに高め合うような場を設定することが大切である。自分の考えを述べ、友だちの考えを聞き、そのうえでより良い考えに練り上げていけるような高まりのある話し合いをすることで、よりコミュニケーション能力が高まっていくであろう。

#### 視点③ ICT機器を有効に活用する工夫

学習に対する興味や関心を高めたり、わかりやすい授業をしたりするために、視覚的・聴覚的に機能するICT機器は有効であり、また、話し合い活動を円滑に行うためのツールとしても活用できると考える。その時々授業内容で、ICT機器をどのように活用すれば有効に機能するのかということ念頭に置いて授業を構築することが大切である。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- タブレット端末を児童自身で操作したり、学習場面を大型モニタに視覚的に提示したりすることで、児童の学習に対する興味や関心の向上が見られた。
- 「発表ノート」を使用して、話し合い活動の多面化を図ったり、お互いにわからないことを質問したり教え合ったりする活動を行うことにより、コミュニケーション能力の高まりが見られた。
- タブレット端末で動画を撮影するなどして視覚的に学習を行い、理解の深化が図れた。また、間違えてもすぐにやり直しができるため、時間の短縮につながり、それが考える時間の確保にもつながった。
- 遠く離れた国の人たちともリアルタイムで交流することができ、異文化にじかにふれたり学習を深めたりすることができた。

#### (2) 今後の課題

- ICT機器のトラブルや誤操作に児童が対応できるようにしておく。
- タブレット端末は、使う意図や場面を教師がよく考えて設定する。
- ICTのスキルを学年が上がるにしたがって積み上げていくことが大切であり、学年に応じた系統性が必要である。
- 今後、ICT機器を、どのように使えばより「主体的」で「対話的」な「深い学び」につながっていくのか研修を積み重ねていくことが大切である。